

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第41回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2018年5月21日 (月) 13:30~16:00

2. 場所 原子力安全推進協会 3,4会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 柳原主査, 梅原幹事, 小畑, 柏木, 佐々木, 田中, 新津, 野口, 横田, 脇 (10名)

(欠席委員) 武部副主査, 伊藤, 大浦, 熊谷, 坂下 (5名)

(代理委員) 天澤 (武部副主査代理), 山本 (伊藤代理) (2名)

(常時参加者) 井上, 浦上, 小野, 松本, 満田 (5名)

(欠席常時参加者) 北島, 木原, 手塚, 中山, 宝珍 (5名)

(オブザーバー) 加藤, 斎川, 見上, 持丸 (4名)

4. 配付資料

F9Ph2SC41-1 第40回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC41-2 人事について

F9Ph2SC41-3 L2 廃棄体製作検査標準の策定計画の趣意書

F9Ph2SC41-4 L2 廃棄体製作検査標準の全体構成 (案)

F9Ph2SC41-5-1 附属書 A (規定) 対象廃棄物の範囲及びその性状

F9Ph2SC41-5-2 附属書 B (規定) 廃棄体に要求される技術要素及び技術的要件

F9Ph2SC41-6 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の審議の基本計画案

F9Ph2SC41-参考1 標準の「用語及び定義」に係る見直し依頼の紹介

5. 議事

(1) 出席委員の確認

柳原主査から, 開始時に代理の出席を含め 12 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録 (案) の確認 (F9Ph2SC41-1)

梅原幹事から, 第 40 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され, 承認された。

また, 今後, 本分科会において, 誤記チェックですみやかに標準に反映するとした内容に関して, 検討を進める計画の紹介があった。

(3) 人事について (F9Ph2SC41-2)

資料に基づき, 伊藤委員及び熊谷委員の退任の連絡, 及び後任として山本武志委員及び丸和弘委員の選任に関する提案があり, 審議の結果, 新委員の選任については承認された。また, 常時参加

者登録として、土田大輔常時参加者及び加藤藤孝常時参加者に関して、柳原主査より承認を受けた。

(4) L2 廃棄体製作検査標準の策定計画の趣意書 (F9Ph2SC41-3)

梅原幹事から、今後1年間をかけて審議を進めるL2 廃棄体製作検査標準の標準化計画が紹介され、次の質疑が行われた。

- ・ 国のエンドースを目指しているとのことであるが、始めるのはいつ頃なのか？
→ 標準制定後になると考えるが、適宜、標準化の内容を国に説明していくことが必要ではと考えている。
- ・ すでに埋設処分を行っている廃棄体が今回の標準の対象であるため、エンドースも行きやすいのでは？
- ・ 解体廃棄物に関しても、標準化を急ぐ必要があるのでは？
→ ドラム缶形態の廃棄体の標準化が終わり次第、次のステップで、標準化を計画している。

(5) L2 廃棄体製作検査標準の全体構成 (案) (F9Ph2SC41-4)

柏木委員より、今後審議を行うL2 廃棄体製作検査標準の当初計画としての標準の全体構成(本体目次、附属書構成)に関して紹介された。なお、分科会の審議の結果を踏まえて、標準の全体構成にもフィードバックすることもある。

(6) 附属書A(規定) 対象廃棄物の範囲及びその性状 (F9Ph2SC41-5-1)

柏木委員より、当面、L2 廃棄体製作検査標準が対象としている放射性廃棄物及び固型化方法の範囲に関して説明があった。以下に、主な質疑などを示す。

- ・ 焼却灰の固化体は、現行の技術基準では、均一固化体に定義、充填固化体に該当しないのでは？
→ 技術基準を確認するが、この標準では、練り混ぜによって固化体とするものは均一固化体で、充填によって固型化するものは、充填固化体と想定している。このため、焼却灰を熔融固型化したもの(固体状の廃棄物)を固型化する廃棄体は、充填固化体に該当と考えている。
なお、技術基準の内容を再確認する。
- ・ 表A.1の焼却灰が均一固化体と充填固化体の双方にまたがっている点に、上記の説明を加えた方が分かりやすいのでは？
→ 拝承

(7) 附属書B(規定) 廃棄体に要求される技術要素及び技術的要件 (F9Ph2SC41-5-2)

柏木委員よりL2 廃棄体製作検査標準に記載すべき内容に関して、国のガイドラインである省令基準を満たす技術要素、技術的要件を抽出して、標準化内容の検討を進めるとの説明があった。以下に、主な質疑などを示す。

- ・ 要因特性図で、標準化内容を抽出することは分かったが、抜けが無いことはどのように見ているのか？
→ 無いことを説明するのは難しいが、この方針に沿って作成された標準の具体的な内容を分科会で議論していただくことによって、チェックできるのではと考えている。

- ・ 環境影響物質の影響が小さいことに関しては、影響ないことを示す内容が抜けているように見えるが？
→ 要因特性図及び構成案は、代表的な項目を例示して示しているため、今後、標準の具体的な内容で詳細を示すことになる。
- ・ 廃棄体に関することは、短期／長期の両者に関係するのでは？
→ 例えば、耐埋設荷重強度は、未来永劫に要求される性能ではなく、埋設の初期段階に要求される性能で、放射能は、受け入れ時点だけでなく埋設後の長期のビルドアップなども考慮して制限されるなど、廃棄体の各性能の目的に応じて、短期的要求と長期的要求に分類される。

(8) 標準の「用語及び定義」に係る見直し依頼の紹介 (F9Ph2SC41-参考 1)

柏木委員より本分科会が管掌している標準の「用語及び定義」「略称」に関して、上部委員会から内容の統一化を図るための検討依頼が出されている旨の説明があった。次回以降の分科会で、本件と誤記チェックからの反映事項を合わせて、審議する計画とした。

(9) 分科会等の今後の予定について (F9Ph2SC41-6)

梅原幹事より、今後の分科会の審議の予定案に関する説明があった。
また、次回分科会は6月29日(金)の予定とした。

以 上